

# 矢板のお城めぐり

.....

③



今回からは支城の紹介をし  
ていきたいと思います。支城とは出  
城とも言われ、本城を守るた  
めに周囲に配置されたものです。  
まずは「御前原城」ですが、  
この城を紹介するためには、  
どうしても昭和三十八年まで  
さかのぼる必要があります。  
この年に、この城跡を含めた  
周辺一帯約四十三ヘクタール  
が、栃木県開発公社に買収さ  
れ、工場団地として造成され  
ることになりました。それと  
同時に、矢板バイパス（現国  
道四号）も計画され、これが  
城跡のど真ん中を通過するこ  
ととなったのです。  
そこで急ぎよ、地元文化財  
関係者が立ち上がり、その重  
要性を訴えて保存運動を起

したものでした。これがやがて  
県や国をも動かし、主郭（本  
丸）部分の約三、四ヘクタールを  
矢板市が買い戻すこと、  
そして栃木県の史跡に指定す  
ることが決議されました。併  
せてバイパスも現在の路線に  
変更することとなり、ここに  
御前原城は保存されることにな  
りました。さらに、この団  
地内には早川電機工業（現シャ  
ープ（栃木事業所））の誘致が決  
定し、昭和四十三年に操業を  
開始しました。  
それでは、県や国の計画を  
変更させてまでも保存された  
御前原城とは、どんなお城だっ  
たのでしょうか。  
まず第一に、平安時代末期  
という古い時代に築かれたこ  
とです。築城者は、源義家の  
孫の堀江頼純で、この塩谷地  
方を支配したことから「塩谷」  
を名乗ることになりました。  
この五代後の朝義に子がなかつ  
たために、宇都宮家から養子  
に入ったのが朝業ということ  
になります。  
次に、この城の形が、「平  
城」あるいは回字形と呼ばれ  
るもので、東西が約一八〇メー  
トル、南北が約一七〇メー

## はしか地蔵のお祭りの様子



ルの方形を成しています。  
さらに、この南側の中央部  
分からは東西四〇メートル、  
南北六〇メートルの張り出し  
が造られています。ここに、  
虎口（＝城の出入り口）がほ  
ぼ完全な形で遺されています。  
こんなところから、栃木県  
の史跡に指定されたのでした。  
参考に、県内には二三〇もの  
城跡が確認されておりますが、  
その中で県の史跡は五つしか  
ありません。  
こうした歴史をたどりなが  
ら、現在の御前原城跡公園が  
あります。いつまでも市民の  
憩いの場として大切にしてい  
きましょう。  
(矢板市史より)

**ひかりの祭典**  
先週、矢板駅前広場のイルミネーショ  
ンが点灯されました。駅舎を出ると、  
すぐに大きなヒマラヤ杉全体がLED  
で、そして広場全体が色とりどりのラ  
イトで飾られ、この様子を十一月末か  
ら一月初旬まで楽しむことができます。  
通勤、通学の帰途、このイルミネー  
ションを見ると、疲れた気持ち癒さ  
れるでしょう。また、旅行帰りの人が  
駅を降り、このイルミネーションを見  
て、やっと矢板に帰ってきたという実  
感がわくことでしょう。八月のあんど  
んまつり、十月の花火大会、そしてこ  
のイルミネーションは、夏から冬にか  
けてのひかりのお祭りと言えます。  
これら三つの行事は市民のボランティア  
が中心となって運営されています。  
このひかりのお祭りを矢板の新しい季  
節の行事として、これからも継続して  
もらいたいと願っています。(T・M)

**記者の独り言**  
思い起せば...  
早いものですネ、もう師走  
です。この歳になると一年が  
あっという間に過ぎていくよ  
うな気がします。これからの  
季節、子どもたちにとっては  
クリスマス、お正月と大きな  
楽しみが待っていて、今から  
ワクワクしているのではない  
でしょうか。  
私が生かす頃、お正月に  
は登校日があって、校庭で校  
長先生のお話を聞き、みかん  
が配られました。そうそう、  
式が終わって卓球をやってい  
たら、いつの間にか雪が降っ  
ていたことがありました。帰  
り道には結構な雪が積もって  
いて、懐かしい思い出です。  
私の家の元日は、子どもは  
みな新調した服を着て家族そ  
ろって「おめでとー」のあい  
さつから始まりました。母の  
真新しい割烹着がまぶしかつ  
た。父も母ももういない。遠  
い昔の話です。(R・K)

**(編集後記)**  
「やいた応援かわら版」の愛読者だった私が、この度、編集  
委員になりました。きっかけは、矢板市の住人になって30年近  
くがたとうとしていますが、毎号の「やいた応援かわら版」を  
読むたびに「えー？そうだったの？」「へー？知らなかったな！」  
という情報が多くあり、私みたいな知らない人にもっとたくさ  
ん矢板のいいところを知ってもらいたいと考えたからです。  
今号も矢板のいいところ満載でお届けします。(T・O)

